



2014 年度理事会・総会開催

5月30日、本年度の理事会と総会を開催しました。いつも集まっているボランティアメンバーに加え、清水新二理事長、生越照幸理事も加わり、昨年度の活動報告・決算と今年度の活動計画・予算などを検討しました。議案は可決され、無事終えることができました。

総会終了後には、懇親会を開催しました。普段は活動分野が違いなかなか会うことのないメンバー同士が交流するのは、とても良い刺激になったようです。

2010年に開設してから、来年で5年。当初10人だったボランティアメンバーは67名に増え、行政からの委託事業など多くの活動メニューを抱えるようになりました。ボランティアメンバーの負担は大きいですが、「苦悩する人をひとりぼっちにしない」という思いで向き合うボランティアメンバーの熱意と頑張り、また、支援していただいている多くの方のおかげでここまで続けてきました。

センターの活動の中心としてきた電話相談は、昨年の総電話件数は1867件。この4年で、最多でした。とくに40代（422件）、50代（220件）、30代（126件）と、社会の中核をになう年代層が多いのが特徴です。

いっぽう、昨年9月から運用を始めたメール相談はほとんどが若年層です。若者は一般に追いつめられていてもそれを表現したり、助けを求めないとされていますが、相談ツールの整備によって援助希求を高めることができました。

また、昨年度2回開催した居場所づくり事業「おでんの会」は、今年から毎月開催の通年事業になりました。

今年度は、5周年記念として記念冊子の発行を予定しています。今までの活動を振り返り、今後につなぐ良い機会となることでしょう。これからも「苦悩する人をひとりぼっちにしない」という思いを大切に、活動を続けます。



Sotto の想いを伝える。

先月号でも触れたとおり、Sotto の今年度（2014）予算は、収入見込額が昨年より減少するという問題が生じています。その理由は、ご寄付いただける方の減少、よりそいホットラインの報酬単価の減額などによります。よりそいホットラインについては、国の事業と連動したものであり、自殺対策予算の増減次第で事業存続が危ぶまれるような状況にあり、経常的な収入としての見込みはありません。今のところ、事業費は全て寄付や会費、行政からの補助金などでまかなっています。したがって、基板である寄付収入額が減少していることは、Sotto の活動の存続にも関わるきわめて重要な課題であると認識しています。

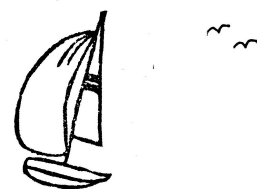
こうした状況の解決については一つひとつ丁寧に検討しているところですが、なによりこれまで以上に、Sotto の活動や想いを真摯に伝える努力をすることが基本となります。まずは、Sotto の活動や想いをどのように伝えるか、また、想いに応えてくれる方をどのように受け入れるのかということを考えなければなりません。

病院まわりや街頭活動などといった従来の広報活動は継続しつつ、インターネットの Yahoo! 広告を活用します。また、日本では 7 月 10 日に発表されたばかりの Google for Nonprofits（非営利団体向けプログラム）に申請を出しました。これが承認されると Google の検索広告への掲載や YouTube 内に特設のページを持つことができます。ご寄付の受付に関しては、従来のゆうちょ銀行口座だけでなく、オンラインカード決済の再導入も検討しています。また、ボランティアとして一緒に活動していただける方の受け入れ体制としては、より多くの方に関わっていただけるように、養成講座を受講しなくても参加できる支援ボランティアの枠を設けています。支援ボランティアには、会報の封入作業など、対人支援には関わらないながらも大切な活動をしていただいています。ほかには、これまで培ってきた相談と研修の実績を活かして、講演や研修提供などの外部出講を増やすなどの努力も必要でしょう。今のところ、「自死について考える」「死にたい気持ちとは」「話を聴くということ」などをテーマにした体験学習を検討しています。Sotto を応援していただける方々の期待に応えられるように、スタッフの養成などにもあらためて積極的に取り組む必要があります。

この紙面でも引き続きファンドレイジングの取り組みについてお知らせします。

（ファンドレイジング委員長 金子宗孝）

被災地ノート ②⑧



まっさらな気持ちで。

震災から4年目に入った3月のある日のこと。

3月に入ってからというもの、折に触れ震災のことばかり思い出すという女性がいらした。

「あのときはね、こんなだったの」という震災直後のお話しは、3年前とは思えないほど鮮明で、詳細だった。

握っていたはずの車のハンドルから、手が外れるほど強い揺れだったこと。

カーラジオから津波警報を知らせるニュースが流れるや、日和山に急いで避難したこと。

そのまま車の中でひと晩を過ごし、自分の住む町が津波によって流されたなんて思いもしなかったこと。

そのときに感じた気持ちや、情景が目浮かぶようであった。

きっと、何度も何度も繰り返し思い返されていたのだろう。

なかでも、避難所での過酷な体験が、印象に残った。

ほんとうに少ない食料をみんなで分け合ったこと。

段ボールで仕切られた狭いプライベートスペース。

支援物資に女性下着が少なかったこと。それを自分で言いだせなくて困ってしまったことなど。

「それは大変でしたね」とお声がけをすると、女性は静かに首を振られた。

大変なんかじゃないと言う。

「大変というより、ただ一生懸命でした。避難所の生活では、みんなが協力し合って。人って素晴らしいなって感動しました。」女性の表情は、どこか懐かしそうに微笑んでいた。

地震、津波、避難所という言葉から、相手の話を聞いているようで、こちらで勝手な先入観を積み上げていたのだ。

改めて、まっさらな気持ちで、お話を伺おうと思った。

(ボランティア2期生 A.C.)

活動報告

● 6 月期電話相談件数…158 件（無言 4 件、よりそいホットライン担当 50 件を含む）

● 電話相談委員会

グループ研修 6 月 12 日（木）5 名、19 日（木）10 名、26 日 10 名

● 5 月期メール相談件数…受信件数 64 件 送信件数 55 件

● メール相談委員会

グループ研修 6 月 17 日（火）4 名、27 日（金）3 名

● グリーフサポート委員会

語りあう会 6 月 12 日（木）8 名（参加者 0 名）

● ファンドレイジング委員会

委員会会議 6 月 5 日（金）5 名



寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2014 年 5 月 24 日～6 月 30 日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

鈴木善隆

藤大慶

佐々木大悟

深井恵純

大分県速見郡・安楽寺（日野凡記）

尼崎市・西要寺

竹本宣子

廣谷ゆみ子

竹本了悟

鈴木八代子

長岡裕之

廿日市市・西向寺

源正寺太子堂

みやま市・浄弘寺（下川弘暎）

柏原市・了雲寺

下関市・善照寺

高橋彰子

小林秀明

山本清子

寺本ジ芳

藤丸智雄

源照寺

西義人

姫路市・善正寺

永江武雄

中村恵明

中平了悟

中平未紀

草田みち子

高田妙子

吉田明

射水市・勝誓寺

高島幸博

茨木市・善照寺（岡玲）

長崎県南松浦郡・得雄寺

佐々木隆晃

銚田市・教圓寺

穴栗市・明宝寺（宇野正憲）

普賢保之

庄司豊明

野田潤児

堺市・圓光寺

大谷光真

鈴木八代子

大田清昭

高木愛郁

Sotto コメント

京都の夏といえば祇園祭ですね。今年は 49 年ぶりに「後祭り」が復活するとのこと注目されています。〈手遅れ〉という意味で使う〈あとの祭り〉の語源ともいわれているようですが、いったいどんなお祭りなのでしょう。気になります。（N.Y.）

発行 2014 年 7 月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒 600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92
T E L 075-365-1600
U R L [http:// www.kyoto-jsc.jp](http://www.kyoto-jsc.jp)
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp